

誰も教えたかった！138

保険代理店が「家業」から
「企業」になる方法

株式会社ブレインマークス

代表取締役 安東 邦彦

シリーズ3



【プロフィール】

保険代理店が持続的に成長するための組織化、経営の仕組みづくりを支援するコンサルタント。
著書：『社長が3ヶ月不在でも成長する会社のつくり方』
運営組織：プロ代理店経営アカデミー

<https://www.brain-marks.com>

社長が3か月不在でも持続成長する代理店を目指す！

代理店経営情報報

シンニチ
代理店版

事業拡大のために奮闘する代理店が増え一方で、未来への不安を抱えるケースもなくありません。このままでは「時間が過ぎただけで、変わるのは年齢と保険会社の要求の厳しさだけ」という未来を迎えかねません。そこで今月は、「成長期における社員の疲弊問題」を取り上げ、組織を拡大するために必要な「個人事業から組織経営へ脱皮するプロセス」について考えましょう。きっと価値ある取組みになると想います。

「個人事業」から「組織経営」へ脱皮のプロセス

社長と社員の違い

社長の想いと社員の現状に乖離があることはよくあることです。たとえば、以下のご相談のようなケースです。「研修生から独立して5年、法人成りして5年。10年かけてようやく代理店として事

業が軌道に乗ってきました。そんな時期に社員から「いつまで頑張ればいいのですか」と声が上がり出しています。今が肝心な時だからこそ、なんとか奮起してほしい…。これは、経営者なら必ず経験するジレンマで

このような社員にどう対応すべきでしょうか？」

社員への対処法

がかかるていますから、とにかく社員はそれについてこれないのです。

組織経営への道

①個性による分業

②組織の仕組み

等にやることが当たり前にあります。業務がパンク状態に陥っているなら、得意業務を増やして、苦手業務を得意な人に任せていいくような取組みつまり、「個性による分業」が必要です。

例えばですが、新規開拓が苦手な営業担当に新規案件を求めて続けても、成果があがらません。顧客を選び、契約更改業務や事故処理を数多くやっておりました方が効率は上がりります。このようないい、苦手分野を誰かに任せることが組織化の第一歩です。

チャンスを前にしてペースダウンの判断を下すのは、非常に勇気がいることかもしれません。しかし、社員が心身を健やかに保ち、会社に愛着を抱いてくれなければ、組織のスムーズな発展は実現できないのです。今までの「個人事業」から「組織経営」に脱皮していくプロセスだと思って頂いて、ベースコン

トロールを行いつつ、恩切れを防ぐための体制構築に挑戦してみてください。きっとその取組みは、今後も永く発展し続けるための組織経営の礎となるはずです。

スを緩めましょう」とアドバイスします。なぜなら、恩切れしている社員を無理に走らせ続ければ、近いうちに必ず限界が訪れます。そうなれば、品質低下や離職などのトラブルが発生し、結局は組織の成長にも負アレキがかかります。ですから、ここはペースを落として余裕を確保しつつ、再び恩切れが生じるのを防ぐための体制づくりに取り組むのが建設的です。実際は、このアドバイスを素直に聞いてもらえるケースはほとんどないのが実情ですが…。

息切れ社員への対処法①

二つ目は、「②振り返りの仕組みをつくる」ことです。次から次へと新しい取組みを行うと、「いくら頑張ってもやりの仕組みをつくる」ことがない、どこまで走ればいいのか？」と徒労感に苛まれてしまします。こ

れを防ぐには、立ち止まってこれまでの道のりを振り返る仕組み」が必要です。半期ごと、1年ごと、3年ごと…といふ定期的に、大小さまざまなスパンで振り返り、振り張りを十分にねぎらってから、次の目標を向かう仕組みをつくってみてください。すると、社員はもちろん、経営者もより成長を楽しみながら歩み続けられるようになります。「立ち止まって、振り返る仕組み」は組織化への重要な取組みです。